対面授業　　文京・八王子国際 両キャンパス にて開講

社会科・公民科教育法
Methodology of Teaching Social Studies and Civics

ARAI Masako 荒井 雅子　TOGAWA Tomoru 戸川 点

科目ナンバリング：UTL-3-201-02

■授業の目的及び到達目標
社会科公民的分野・公民科の教育目標、育成すべき資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について適切な授業設計ができる力を身につけることを目的とする。学習指導要領に示された目標、学習内容を理解し、様々な学習理論や方法をもとに、授業設計と学習指導案を作成できるようにすることが到達目標である。

■授業計画
〔前期〕

1 社会科・公民科の位置づけ
学習指導要領の変遷を学びながら、社会科公民的分野・公民科の位置づけを理解する。
2 公民的分野の目標
学習指導要領における社会科の目標、３分野の構造、公民的分野の目標を理解する。
3 公民的分野の単元構成
学習指導要領における社会科公民的分野の政治・経済・社会・国際各単元の内容及び指導上の留意点を理解する。
4 公民的分野の学習評価
観点別学習評価の意義を学び、社会科公民的分野における学習評価を理解する。
5 現代社会の見方・考え方と主体的・対話的で深い学び
現代社会の見方・考え方を育てる学習指導の意義を理解し、社会科公民的分野における主体的・対話的で深い学びの進め方を学ぶ。
6 学習指導の形態
社会的事象の理解中心の学習、問題解決的な学習の意義を理解し、実践方法を学ぶ。
7 人権尊重・生命尊重の学習
人権尊重、生命尊重の学習について、関連科学の成果を踏まえて理解し、実践方法を学ぶ。
8 ＩＣＴ活用を取り入れた学習
ＩＣＴ機器活用の教育上の意義と効果的な活用方法を理解し、社会科公民的分野における機器を活用した授業実践を学ぶ。
9 学習指導案作成の意義
学習指導案の作成の意義や構成を理解し、記入の仕方を学ぶ。
10 指導案作成演習
教材研究を基に単元の授業設計を行い、学習指導案を作成する。
11 模擬授業演習(1)
社会科公民的分野の政治･経済単元で模擬授業を行い、振り返りを通して授業改善を考える。
12 模擬授業演習(2)
社会科公民的分野の社会・国際単元で模擬授業を行い、振り返りを通して授業改善を考える。
13 公民的分野と発展的な学習／前期学修の総括
社会科公民的分野の研究実践動向、発展的な学習の取扱いを学び、授業設計の向上を考える。
前期の試験。試験の後、フィードバックとして前記の学修内容を整理・解説し、到達度と課題について自己評価・相互評価を行う。

〔後期〕

1 公民科の目標
学習指導要領における公民科の目標、３科目からなる教科の構造を理解する。
2 「公共」の位置づけ
学習指導要領における公民科の「公共」の目標、内容及び指導上の留意点を理解する。
3 「倫理」の位置づけ
学習指導要領における公民科の「倫理」の目標、内容及び指導上の留意点を理解する。
4 「政治･経済」の位置づけ
学習指導要領における公民科の「政治・経済」の目標、内容及び指導上の留意点を理解する。
5 公民科の見方・考え方と主体的･対話的で深い学び
「公共」「倫理」「政治・経済」における見方・考え方を育てる学習指導の意義を理解し、公民科における主体的・対話的で深い学びの進め方を学ぶ。
6 憲法、法に関する教育
憲法学習、法に関する教育について、関連科学の成果を踏まえて理解し、実践方法を学ぶ。
7 ＮＩＥ・ＩＣＴ活用
ＮＩＥ（教育に新聞を）の教育上の意義を理解するとともに、公民科におけるＩＣＴ機器の活用方法を理解し、授業実践を学ぶ。
8 主権者教育、金融経済教育
主権者教育、金融経済教育について、関連科学の成果を踏まえて理解し、実践方法を学ぶ。
9 中高の各段階を踏まえた学習指導
中高の発達段階を踏まえた学習指導の在り方を理解するとともに、中高連携の指導事例を学ぶ。
10 公民科の授業設計
公民科の学習評価を理解し、教材研究を基に単元の授業設計を行い、学習指導案を作成する。
11 模擬授業演習（3）
公民科の「公共」で模擬授業を行い、振り返りを通して授業改善を考える。
12 模擬授業演習(4)
公民科の「倫理」、「政治・経済」で模擬授業を行い、振り返りを通して授業改善を考える。
13 公民科と発展的学習／後期学習の総括
公民科の研究実践動向、発展的な学習の取扱いを学び、授業設計の向上を考える。
後期の試験。試験の後、フィードバックとして１年間の学修内容を整理・解説し、到達度と課題について自己評価・相互評価を行う。

■授業の方法
前期・後期とも、社会科公民的分野、公民科において適切な授業設計ができる力を身につけることができるよう、講義だけでなく、アクティブ・ラーニングや学習指導案の作成、模擬授業の実施など主体的な学習を求めていく。

■予習・復習
毎時間、予習として学習指導要領を読み込むとともに、次時の授業内容に関する重要項目を調べて整理すること（合計５時間程度）。復習として、毎授業のリアクションペーパーなどに学修内容をまとめ、次時への追究課題を記入すること。また授業内容に関連した参考文献を読み、内容理解を深めること（合計５時間程度）。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）
成績評価は、試験、小テスト、提出物、模擬授業のパフォーマンス、授業への取り組み状況などによって行う。具体的には、試験 50%、提出物・小テスト 25%、模擬授業や授業への取り組み状況など 25%を総合的に評価する。試験後にはフィードバックとして解説を行う。

■教科書・参考書
教科書：文部科学省『中学校学習指導要領』（平成 29 年告示）、『高等学校学習指導要領』（平成 30 年告示）。
参考書：中学校『学習指導要領（平成 29 年告示）解説』（社会編）、高等学校『学習指導要領（平成 30 年告示）解説』（公民編）、その他は授業時に紹介する。

■関連する科目
「社会科（地理的･歴史的分野）」「日本政治史」「近代日本経済史」などが直接関連するが、社会科公民的分野、公民科の内容にかかわる科目すべてが関連科目となる。

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）
講義を担当する荒井雅子、戸川点はともに中学や高校で地理歴史科、公民科の教員として学校現場で勤務し、公民科各科目を指導した実績を持っている。また、教育実習生の指導や管理職として所属校の地理歴史科、公民科教員への指導を行った実績などを持つ。